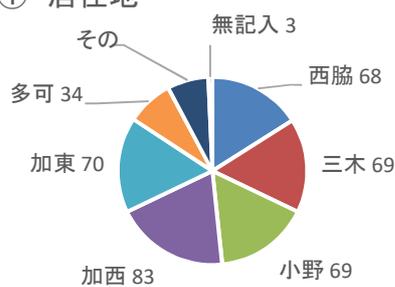


北播磨地域ビジョンアンケート結果 (北播磨の未来を描くワークショップ用)

- 1 目的 北播磨の将来像等に関する地区住民の意識を調査し、新地域ビジョン策定の参考資料とする。
- 2 調査期間 令和2年7月28日～8月31日
- 3 調査対象 管内公立高等学校生徒 兵庫教育大学学生 関西国際大学学生
商工会議所、青年会議所、商工会青年部、観光協会
第10期北播磨地域ビジョン委員 ビジョン委員OB 500人委員会委員
など
- 4 調査方法 ① 調査用紙を郵送にて配布、郵送回収またはWeb上のアンケートフォームに入力
② メールにて通知し、Web上のアンケートフォームに入力
- 5 回収状況 配布数 1404 回収数 426 回収率 30%
- 6 回答者内訳

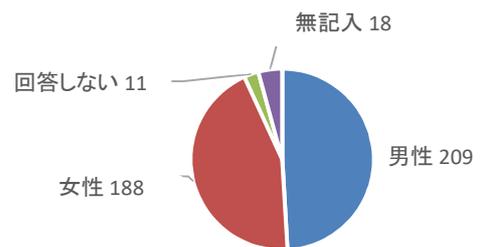
① 居住地



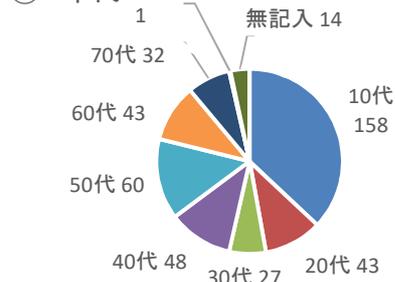
② 北播磨在住歴 ③ 性別

平均
27.6 年

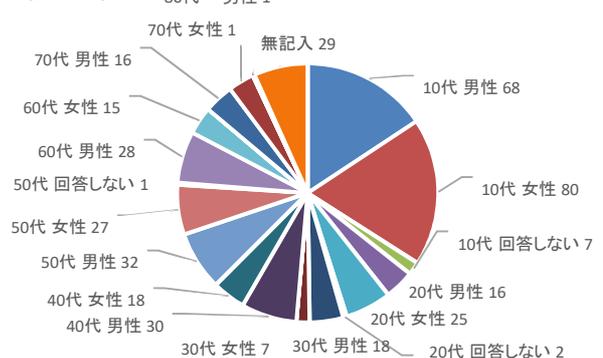
〔在住外国人〕
4.7 年



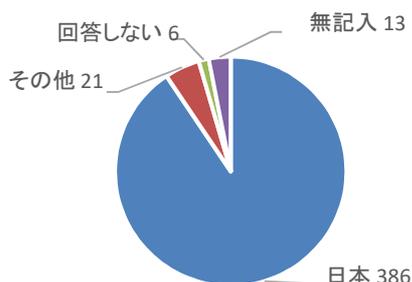
④ 年代



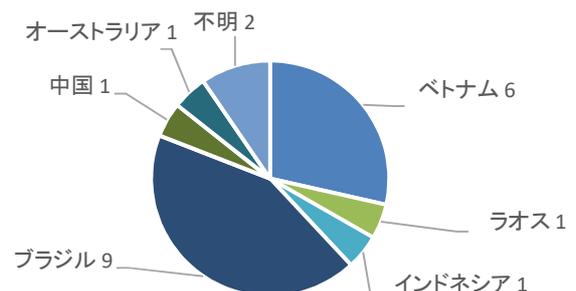
⑤ 性別年代



⑥-1 国籍

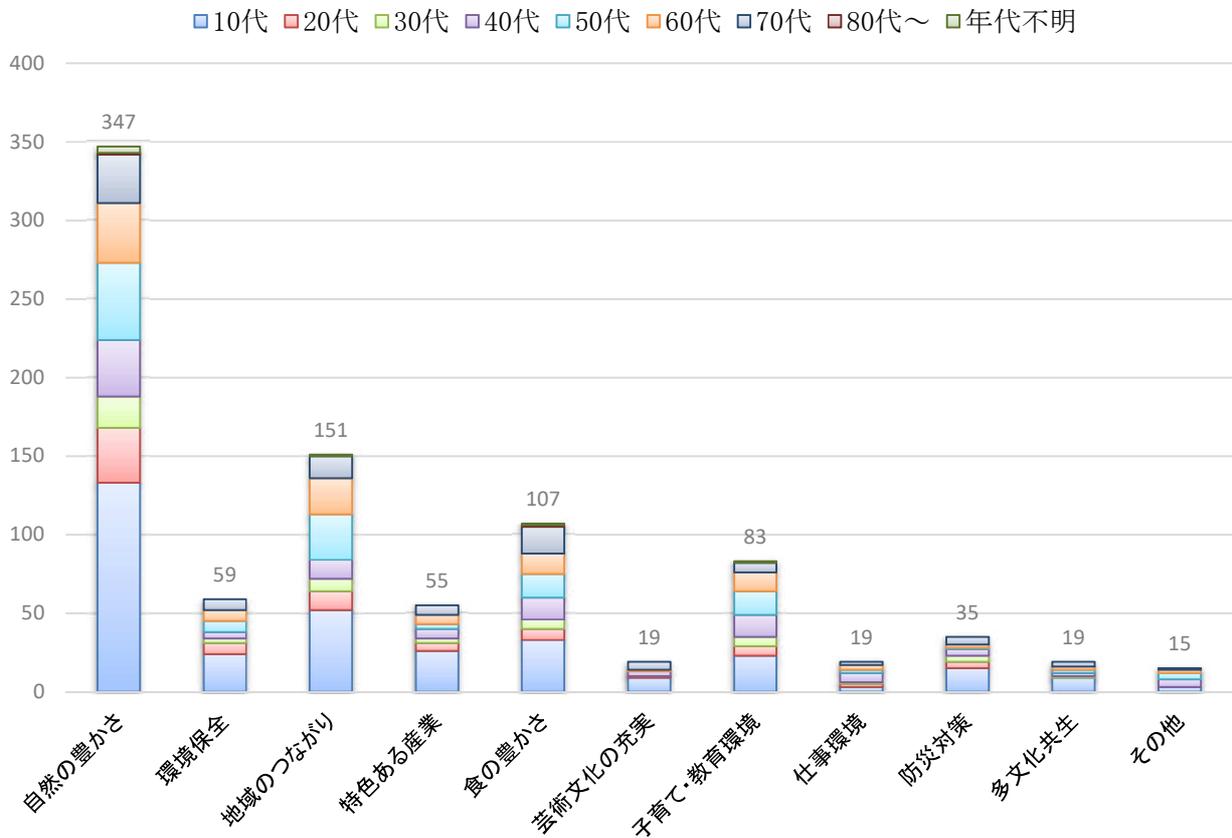


⑥-2 国籍「その他」の内訳



7 選択回答

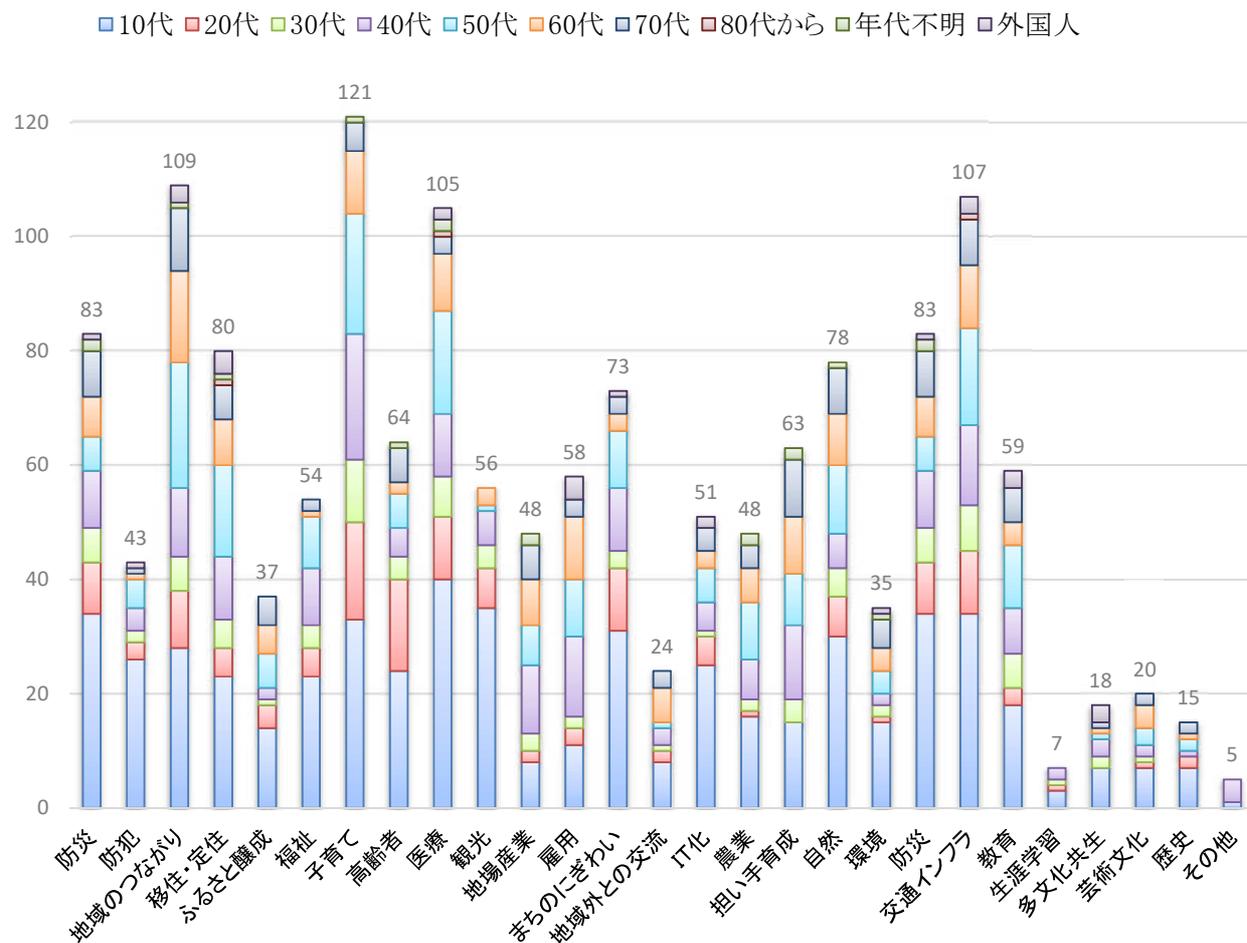
① 北播磨地域に暮らしてよかったと思うこと 複数回答 (延べ回答数 906)



※ 「その他」 内訳

- ・人の親切さ
- ・災害被害が少ない
- ・災害が少ない
- ・田舎らしさが守られている安心なまち
- ・神戸市までのアクセスの良さ(車、電車、バスなど)
- ・大雨による洪水や河川の氾濫もなく、比較的穏やかな気候であり、地震に因る大きな被害も今のところ経験していない・・・など、自然災害による被害が少ないこと
- ・災害が少ない
- ・上記のバランス
- ・ありません
- ・これ と言えるものはない
- ・災害が少ない
- ・地域の人たちが閉鎖的ではなく、おおらかでのんびりしている人が多い。移住者が新しい取り組みをしても協力してくれる姿勢があり、住みやすい場所だと感じている。
- ・歴史文化
- ・近場に史跡がたくさんある。戦争の資料(現物)がある
- ・未記入

② 北播磨地域のビジョンを考える上で特に重視されるべきだと思われること
複数回答（延べ回答数 1529）



※ 「その他」内訳

- ・地域特色の引き立て、地産地消産業の誘致。また、地域をよくする企業の応援
- ・北播磨地域内での市町村のつながり。
- ・新ビジネス ドローンなど
- ・3つでは、ムリ
- ・地域についての学習

8-1 自由記述分析

(設問2) 30年後の北播磨地域は、どのようなところになってほしいと思いますか

各世代いずれも「地域活性化・地域づくり」についての意見が最も多いことから、地域の住民が、30年後も元気で生き生きと暮らしていることを願う方が多数いることが窺える。

次いで、「自然環境」や「交通インフラ」についての意見が多く、豊かな自然環境の保全や、交通利便性の向上を望む方も多い。

さらに、「住みやすさ」では、コンパクトシティのモデル化を望む意見もあった。

一方、北播磨在住の外国人からは、「多文化共生」に関する意見が多かった。

[世代別分析]

10代：①「地域活性化・地域づくり」29%、②「自然環境」19%、③「交通インフラ」14%

20代：①「地域活性化・地域づくり」25%、②「交通インフラ」15%、③「商工業」及び「自然環境」各11%

30代：①「地域活性化・地域づくり」41%、②「子育て」12%

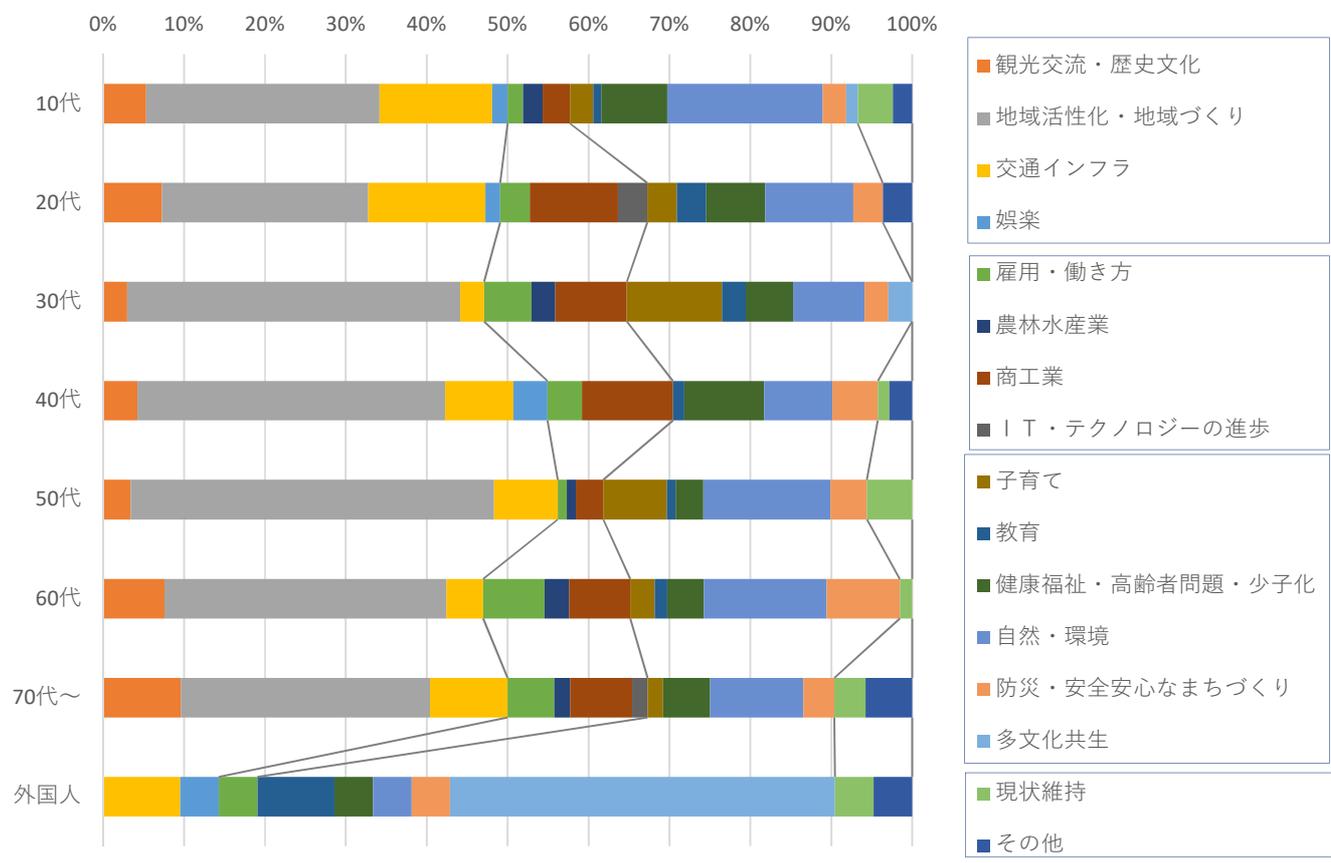
40代：①「地域活性化・地域づくり」38%、②「商工業」11%

50代：①「地域活性化・地域づくり」45%、②「自然環境」16%

60代：①「地域活性化・地域づくり」35%、②「自然環境」15%

70代～：①「地域活性化・地域づくり」31%、②「自然環境」12%

どのようなところになってほしいか



(検討委員意見抜粋)

◎観光交流・歴史文化

- ・他地域から観光・レジャーに呼び込みたい意識や意見が強いが、従来のような私的で家族単位の娯楽的要素ではなく、公的な集団（例えば学校・社会サークル・市民セミナー等々）の訪問地として教育・学びの要素での呼び込みなら、その資源を豊富に持っていることが、アンケートからも読み取れた。

◎地域づくり

- ・自然環境の保全以外は、都市化（都市と同じような環境）を望んでいる様が見える。
- ・人口減少への対応に留意しつつ地域が程よく活性化していくことを望んでいる傾向が読み取れる。
- ・10～40代の回答で「人」がキーワードである点。特に10代は「人が来る」ことに関心があり、観光等の交流人口や都市間交流等による関係人口が生み出す「にぎわい」のある地域をイメージしている。他方、50代以上は域外との交流よりも地域内のつながりを重視する点。
- ・自身が本気で将来的に地域に残ることを想定した当事者意識からの意見は多く見られない。
- ・40代以上は自然環境、地域のつながり、若者の定住など現状維持を求める声が多く、「変化」を求める意見はかなり少ない。
- ・特に50・60代は若者の定住、雇用・就業・暮らしやすさを望むが、次世代の人材育成に関わる教育、子育て、雇用・働き方に関する回答が少ないのはなぜか？（特に教育）
- ・10代については人とつながることの大切さを感じている若者が多いことに感心した。

《課題》

→人口減少への問題意識は共通するものの、世代によってその問題の捉え方や解が異なる。未来に思い描く人とのつながりの種類・数の違いも然り。30年後の地域を考えるのであれば、若者自身が「人が来る」ことに参画したり役割（仕事）を担ったりチャレンジしたり（学び、インターンシップ、起業等）できる現実を見ることができれば、地域での定着やUターンによる北播磨での暮らしの選択肢が増えるのではないか。こうした取り組みは高校等で既に実施されているが、次世代の地域づくりを考えれば、内部だけでなく外部の視点でも地域を捉えるながら、域内外からマネーを取り込む第3次産業の起業、売上・雇用の創出へのチャレンジ、を進めていくことが必要ではないだろうか。

◎雇用

- ・先端企業等の誘致、若者を魅了する企業の誘致、若者が働くことが出来る企業があることに期待しているようである。

◎IT・テクノロジーの進歩

- ・「自動運転の車」、「IoTの先進地、無人タクシー」、「在宅勤務をしながら自然を楽しむライフワークの定着」今ある施策ではなく、新たな価値を生み出す展望であり、自由な移動手段の確保や充実したライフワークの実現は魅力になる。

◎安全安心なまちづくり

- ・防災・安全・安心なまちづくりに対する回答が少ないことは、それだけ災害が少なく治安が良いということなので、そこを売りにしていくことはポイントになると思う。

◎多文化共生

- ・増加傾向にある外国人との共生社会に興味がないのは嘆かわしいことである。今後、日本人住民と外国人住民が互いに多くの機会であら交流し、経験を共有するかが重要であると思う。

8-2 自由記述分析

(設問3)「残していきたいこと」「なくなってほしくないこと」や「残っていけばよい」と思われること

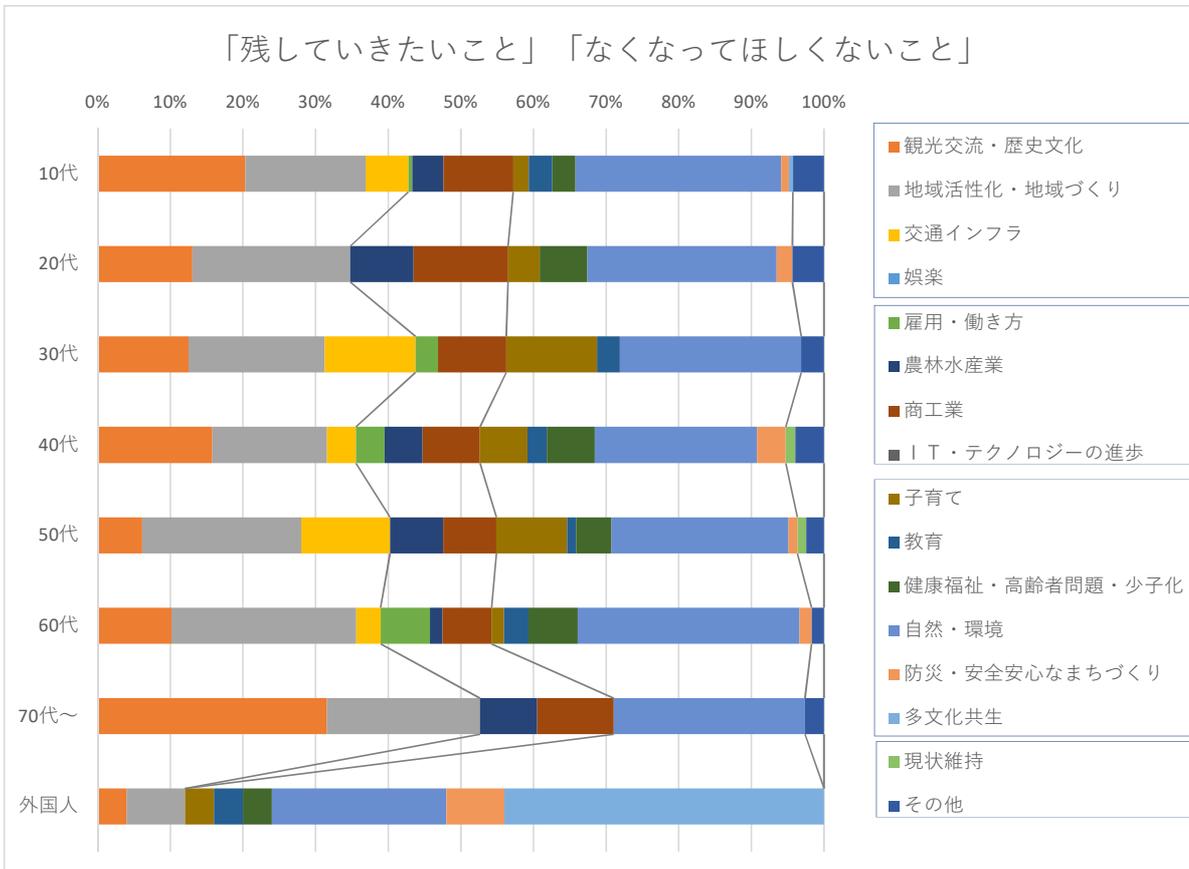
世代別には、「70代～」を除く全ての世代において「自然環境」に関する意見が多く、北播磨地域の豊かな自然環境を守っていくべきと考える方が多数いることが窺える。

次いで、「地域活性化・地域づくり」や「観光交流・歴史文化」についての意見が多く、人と人とのつながりや、伝統的な祭りなどを守っていくべきと望む方も多い。

北播磨在住の外国人も、「自然環境」や「地域活性化・地域づくり」に関する意見が多かった。

〔 世代別分析 〕

- 10代 : ①「自然環境」28%、②「観光交流・歴史文化」20%、③「地域活性化・地域づくり」17%
- 20代 : ①「自然環境」33%、②「地域活性化・地域づくり」22%、③「観光交流・歴史文化」及び「商工業」各13%
- 30代 : ①「自然環境」26%、②「地域活性化・地域づくり」19%、③「観光交流・歴史文化」及び「交通インフラ」、「子育て」各13%
- 40代 : ①「自然環境」22%、②「観光交流・歴史文化」及び「地域活性化・地域づくり」各12%
- 50代 : ①「自然環境」24%、②「地域活性化・地域づくり」22%、③「交通インフラ」12%
- 60代 : ①「自然環境」31%、②「地域活性化・地域づくり」25%、③「観光交流・歴史文化」10%
- 70代～ : ①「観光交流・歴史文化」32%、②「自然環境」26%、③「地域活性化・地域づくり」21%



(検討委員意見抜粋)

◎観光交流・歴史文化

・10・20代が利便性を求めるのは一般的だが、目に見える／具体的な歴史・文化・伝統を重視する回答が多いことに驚いた。幼少期からコミュニティでそれらを体験する機会（ふるさと教育）があり記憶にも刻まれているからだろうか。今後30年間で歴史・文化・伝統行事等は縮小・消滅の方向へ向かう可能性がある中、その過程で今の若者（定住者）がそれらの主な担い手となるには負担が大きく、「残していきたい」思いが変化する可能性があるのではないかと。

・70代以上の方が観光交流・歴史文化を残していきたいという意見が下の世代よりも多いことに驚いた。歴史文化の保存を望んでおられるのだろうが、現役を引退して北播磨の良さに気づき、地域の歴史文化に興味を持つ方が多いということは、現状が良い町なのだと思う。

・国宝を初めとする文化財は国や県市町で登録され保護されてはいる。しかしこのような郷土の宝を展示や講演会などで住民にどれだけ周知し、さらに解説書をつくり、さらに自治体の外部にまで広め観光に活かしたり郷土意識の醸成に役立てたり、さらにはまちづくりに活かしているかは各自治体により取り組みが異なる。北播磨としてのビジョンの形成には是非活かしたいものである。そして北播磨地域としてのより魅力的なイメージ形成に役立て、更に地域力をアップしたいものである。

・70代以上が歴史文化に関する意見が多いことは、後生に残すべき伝統的な祭りなどが多くあることがうかがえる。

◎地域活性化・地域づくり

・「無くなって欲しいもの」もいくつか書かれていた。ポイ捨て、空き家、不平等、うわさ、おせっかい、排他性、差別などである。どれも無くなって欲しいものであるが、なかでも「うわさ、おせっかい、排他性」は田舎独特の都会の人には苦手な感情である。村にもよるが田舎独特のわずらわしさが時として移住を難しくしたり、折角移住しても出ていってしまったということになりがちである。長年住んでいるものには便利なことであったりするのだが、やはり外に開かれた明るい田舎にしていく必要がある。

・自然緩急や人とのつながり、暖かさについては残ってほしいと多くの方が思われているのは住みよきことの象徴だと思います。皆さんがイメージできる北はりまのよいところが、もっと具体的にイメージできるようになるとよいと思います。そのような整備が、「戻ってきたくなる」「住んでみたくなる」北はりまのイメージにつながるとよいと思います。

・なくなってほしくないことの質問に対し、敢えてなくなってほしいとの回答が「祭り」や「村社会」と2つありました。一方で、祭りや人とのつながりを残したいとの回答も多数あり、この項目については、意見が分かれる項目だろうと感じました。

・地域の祭りは残したいという意見については同感である。人と人とのつながりを深めることや地域の祭りや、伝統行事があるからその時にだけでも地元に戻ってきたいという人も多いと思う。

・北播磨地域の自然環境や歴史文化・芸能・風俗・言語（方言）・産業・工芸・特産品などの伝統的遺産と言えるもの、さらに暖かな人間関係に「誇り」を持っていることがうかがえる。農業は残って欲しいが後継者がいないとか、大規模化ではない農業（兼業でも）を残すべきだとの意見もある。後継者確保の観点からも、個別の兼業的働き方のまま、その個人を組織的に統率・運営して、農家の大規模化と同じ効果を得られる方法が、将来的には見込める。

・地場産業、文化財を大切にしていきたいという意見が多い。北播磨の伝統的な生活文化を30年後の生活スタイルに合うように、伝承していく必要性を感じた。

◎農林水産業

・国は大規模農家を育て企業に農業を移転することを進めているがこれでは農村が脆弱になる。コメ作りは以前のような兼業で良いのではないかとのご意見に賛成する。コメだけでなく野菜も多くの家庭で栽培するようにできないものだろうか。大規模農家や企業と共存すればいいのである。年々何ヘクタールもの農地が消えていくのは寂しいものである。先進国では最低の自給率を改善しなければならない。これだけ豊かな自然に恵まれそれを愛する住民が多数存在し大阪・神戸に近い北播磨ならではの利点がある。農業は儲からない斜陽産業だという固定観念から抜け出し北播磨再建の切り札にすることも可能と考える。

・今日から30年後までの世界、日本といった外部環境や北播磨地域内の変化をどう想定するかによるのだが、自然環境との共生、食の安全・自給率の向上、食と農に関連する高付加価値産業（加工にとどまらない）の創出、地域商社機能等の重要性が高まると考えられる。当地域には、自然環境や住民の英知といった北播磨の地域資源を生かした売上づくりを目指すポテンシャルがあると思われる。

◎安全安心なまちづくり

・「防災、安全安心なまちづくり」については、外国人が異口同音に述べることで、日本が誇る場所である。

◎多文化共生

・外国人が「観光交流・歴史文化」をあまり選択していないのは、技能実習生や就労者はそのソースを知る術がないということ、言い換えれば、日本人が情報提供をしていないのではなからうか。多言語化した資料は多くないので、やさしい日本語で発行する、または、日本人から地域のイベントへの参加を促すなどの努力が必要であると思う。

8-3 自由記述分析

(設問4) 「よりよくなる」「よりよくする」必要があると思うこと

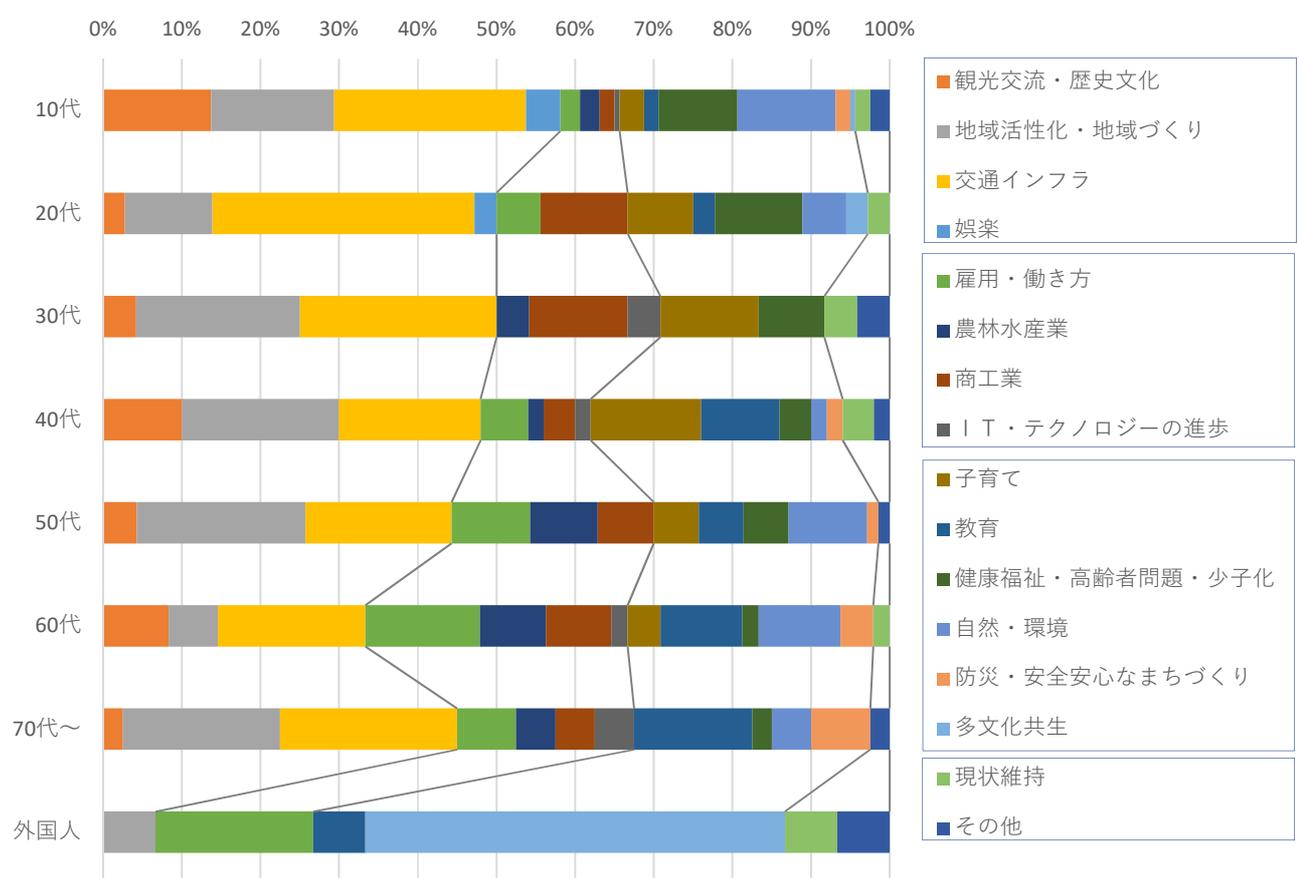
「10代」から「30代」、「60代」及び「70代～」では「交通インフラ」に関する意見が多く、鉄道やバスなど身近な交通手段の利便性の向上の望む方が多いことが窺える。一方で、「40代」及び「50代」は「地域活性化・地域づくり」に関する意見が多く、地域の結びつきや、地域活動の活発化を望む方が多いことが窺える。

北播磨在住の外国人からは、「日本語学校の拡充」や「他国文化との交流」を望む意見があった。

〔 世代別分析 〕

- 10代 : ①「交通インフラ」24%、②「地域活性化・地域づくり」16%、③「自然環境」14%
- 20代 : ①「交通インフラ」33%、②「地域活性化・地域づくり」及び「商工業」、「健康福祉・高齢者問題・少子化」各11%、
- 30代 : ①「交通インフラ」25%、②「地域活性化・地域づくり」21%、③「商工業」及び「子育て」各13%
- 40代 : ①「地域活性化・地域づくり」20%、②「交通インフラ」18%、③「子育て」14%、
- 50代 : ①「地域活性化・地域づくり」21%、②「交通インフラ」19%、③「雇用」及び「自然環境」各11%
- 60代 : ①「交通インフラ」19%、②「雇用」14%、③「教育」及び「自然環境」各10%
- 70代～ : ①「交通インフラ」23%、②「地域活性化・地域づくり」20%、③「教育」15%

「よりよくなる」「よりよくする」必要があると思うこと



(検討委員意見抜粋)

◎地域づくり (ライフスタイル)

・以下の①②③の意見は他と明らかに異なり、(創造的過疎に通じる) 戦略的な将来像をイメージされているようである。地域でこうした内容をオープンに語り合う機会はあるのだろうか？

～アンケート回答抜粋～

①おそらく、行政的には、北はりま市構想だろうと思う。北播磨全体をグローバルネットとして捉えて構想化すること。とくに、教育関係はそのグローバル化することは大きな影響をもたらすと思う。たとえば、北はりま全域で学業が出来ること。学年ごとで北はりまの全く違う場所で勉強ができてもいいし・・・、或いは、北はりま地域以外から大学生を呼び込むことが出来てもいい。それは、例えば、ネットを利用して、北はりま地域にいれば、東京の大学の授業が受けられるとか・・・そういう環境を構築すれば、都会からもこの地方にくることも多くなる、その逆もあり得る。あるいは、北はりま地域の学生が、自身は西脇市出身だとしても三木市のことも分かることにもつながっていく。地域全体をとらえるようになる。そんな構想が膨らむことがあるのではないだろうかと思う

②人が減ることをマイナスにとらえすぎないこと。新たな施設を建てるのではなく、仕組みをよりよくすること

③人口が減ることを甘受した地域インフラの再整備

・「人口が減ることを甘受したインフラの再整備」「人が減ることをマイナスに捉えすぎないこと」どれだけの人口を前提とするのか市町によって異なり、北播磨全体としても異なる。様々な努力を織り込み、どれだけを見込むのかの設定は必要だが否定的に捉えるのではなく与件として割り切り、前向きに取り組む方がやる気が出てきて前途は明るいように思った。

◎インフラ

・「交通インフラ」については、30年後への期待として、自動運転や個別交通システムの充実、道路の改良などの夢が語られると、それらへの実現に向けて他地域よりも充実した新しいありようを見いだすことができるかもしれません。ただ、それは、ある程度の人口の確保とのバランスの上に成り立つとも思われます。文化の継承、地域産業への今後のイメージを作っていけるとよいと思います。多文化共生もひとつの鍵になるかもしれません。

・どの年代でも「交通インフラ」の整備を挙げている。公共交通離れによる廃線などが心配である。しいては、過疎化に拍車をかけることになるのではと一抹の懸念を抱いている。

・日頃、公共交通を利用しないであろう20代～60代の人たちが公共交通の必要性を感じているということは、自動車を運転できなくなったときの将来への不安と自由な移動の確保を重要視しているということを認識しました。

◎働き方

・若い世代の転入・定着や二地域居住先、都会からの移住者などを望んで、活性化を図りたい意図が読み取れる。そのために、就労場所・企業誘致などの意見があるが、場所や企業を引き込む発想ではなく、現在急速に進もうとしているテレワーク・リモートワークなどと言われる働き方に対応できる環境や場所を整える発想のあり方が、今後はより有効であろう。働く場所や地域でレジャーも行えるライフスタイルは若者のニーズに合う。工夫次第でワーケーション(ワーク+バケーション)の場を提供できる。そのための資源としての環境や施設(例えば空き家など)も存在する。少し手を加えるだけで、京阪神(に限らない都会)の働く若い世代にアピールできる要素はあるように思う。

・雇用、働き方に関する意見：世代間で認識が大きく異なる点。
→今後30年間(10年以内にも?)でテクノロジーの進化、人の価値観の多様化は進む(コロナ禍で既に変化が生じている)。新たな学び方(リモート、リカレント、AI人材)、働き方(リモート、フリーランス、副業、パラレルキャリア)、生き方(婚姻、人生100年)など「新たな変化によって北播磨地域がどのような状況に直面するか」という視点を加えて住民の方々の意見を伺ってみたい。教育もセットで。

◎子育て

・少子化が進む北播磨地域において、子育てに関する意見が少ないことに驚いた。現在の子育て施策が充実していると感じておられるのか疑問である。

・「子育て」の環境を整えることは、他方なりとも、少子化に歯止めがかかることにつながると考える。

◎安全安心なまちづくり

・高齢者は「防災・安心安全なまちづくり」を記述しているが、若年層や外国人には見られない。外国人にとって日本はすでに安心安全な街であり、念頭にないのであろう。

◎多文化共生

・多文化共生を選んだ外国人の「日本語学習の機会」「文化習慣を知りたい」「日本人と交流したい」という声は今の彼らの切実な声だと思う。30年後には、外見で出身国を詮索したり、不十分な日本語の外国人を責めたりする社会でないことを切に望む。

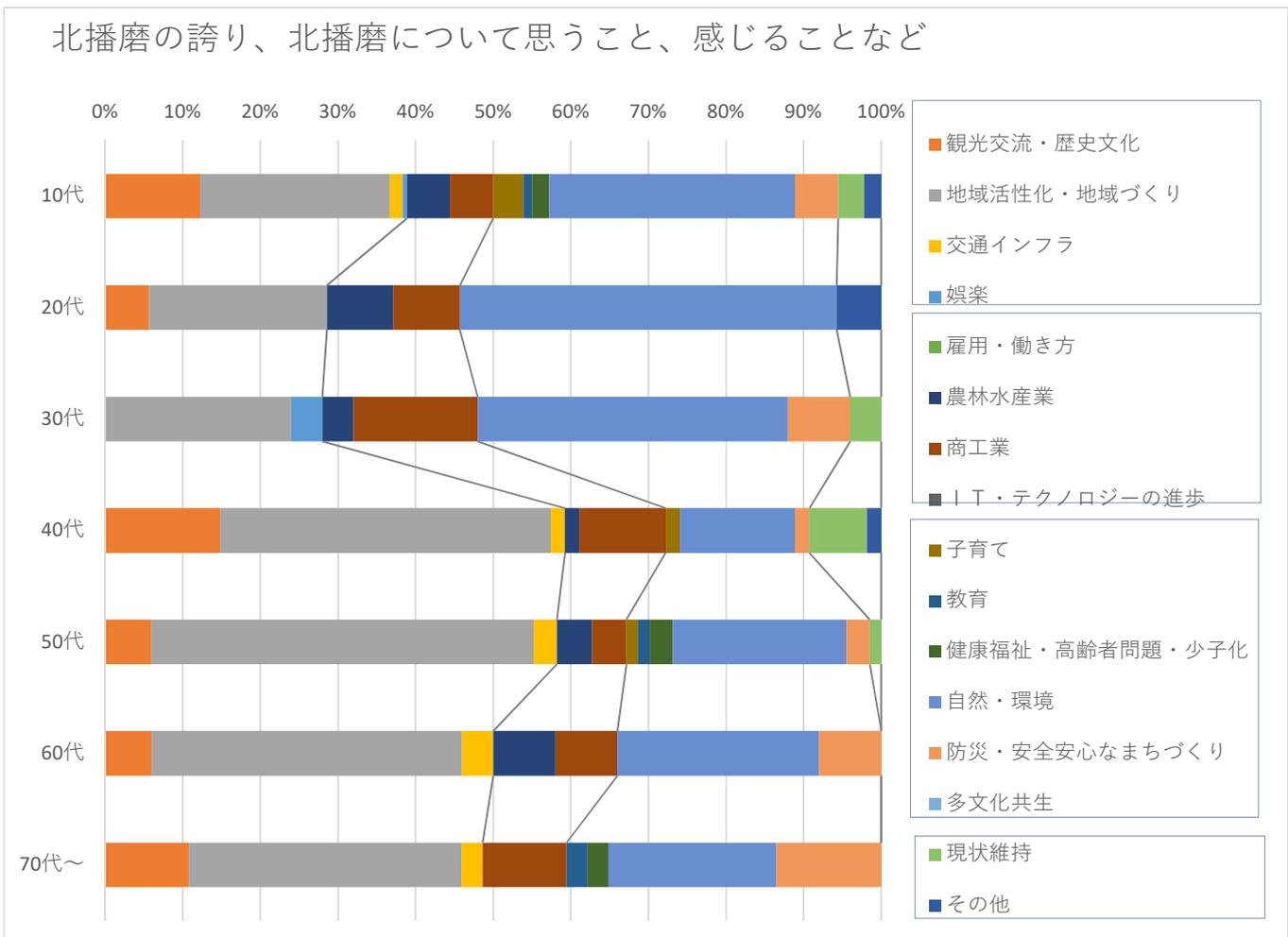
8-4 自由記述分析

(設問6)北播磨の誇り、北播磨について思うこと、感じていることなど

「10代」から「30代」は「自然環境」に関する意見が多く、北播磨の豊かな自然環境を誇りに感じている方が多数いることが窺える。一方、「40代」から「70代～」は「地域活性化・地域づくり」に関する意見が多く、人と人とのつながりや、地域の結びつきを大事にしていきたいと望む方が多いことが窺える。

[世代別分析]

- 10代：①「自然環境」32%、②「地域活性化・地域づくり」24%、③「観光交流・歴史文化」12%
- 20代：①「自然環境」49%、②「地域活性化・地域づくり」23%
- 30代：①「自然環境」40%、②「地域活性化・地域づくり」24%、③「商工業」16%
- 40代：①「地域活性化・地域づくり」43%、②「自然環境」及び「観光交流・歴史文化」各15%
- 50代：①「地域活性化・地域づくり」49%、②「自然環境」22%
- 60代：①「地域活性化・地域づくり」40%、②「自然環境」26%
- 70代～：①「地域活性化・地域づくり」35%、②「自然環境」22%



◎観光交流・歴史文化

- ・例えば歴史や伝統に関わる文化・遺産が整備されていないといった指摘には、今後どのように進めていけばよいかを考えるヒントがあるかもしれません。可視化されていない、知られていないことが、今後へのモチベーションが上がらないことにつながるかもしれません。このあたりは、もっとできるでしょうという期待も込められているのではないのでしょうか。（10代の意見には「個性が薄い」といった意見もあります。）
- ・「江戸、京都よりも古い歴史・文化がゴロゴロ～可視化したい」について、江戸や京都に匹敵するような有力な観光資源・歴史的価値となる得るならば、面白い取り組みだと感じた。

◎地域づくり

- ・すべての世代で「自然環境」を誇りと感じている割合が高い一方で、北播磨地域には若者向けの娯楽施設が少なく、10代の回答者からは、「観光したいと思わない。帰省したいと思う魅力も少ない。」という意見があり、若年層の流出を抑制する対策も必要である。
- ・北播磨の地域性、文化を息苦しく感じている10代の意見が気になった。全体として地域のつながりを大切にしていきたいという意見が多いが、居住地域によって温度差があり、各自治会、あるいは、市町村の競争ではなく連携の必要性を感じた。
- ・歴史や伝統に関わる文化・遺産の整備を進め、可視化したり、知られるようになることは、今後の北はりまへの人の注目に繋がります。豊かな自然に加え、人々の営みが伝えられるようになるとういと思います。30年後でも、変わらない自然豊かで歴史ある北はりまと、新しいテクノロジーに支えられたより住みやすい北はりまの共生が求められていると思います。
- ・「北播磨地域が気に入り移住してきた方が乱開発等で地域の魅力が無くなり住んでいる意味がなくなる。」地域の先住者と移住者の見解の違いを精査し、未来のビジョン構築に役立てる必要があると…30年後に北播磨地域が“ハイマートロス（故郷喪失）”にならないために北播磨地域の人達の意識改革、意識向上を切に願います。
- ・自然環境に恵まれ、地域づくりが活発で、気候が温暖で、大きな災害もなく、半分都会で半分田舎、朝は小鳥のさえずり、夏は蝉の声、四季折々の花、ゆったりとした日々の暮らし、人々とのふれあいこれほど恵まれた条件なのに、人口減少、若者流出、労働人口の減少、子どもの減少、すべてにおいて縮小する地域、増えるのは空き家と高齢者と放棄田や放棄林。地域創生というものの廃れる地域は数知れず。大きなトレンドに抗し、地域再生は可能なのか。考えさせられたアンケートであった。
- ・自然環境を誇りと感じている若い世代が多く大変嬉しいかぎりです。地域に於いては“向こう三軒両隣”の付き合いがある所がありますが若い世代にもこの地域のつながりを持ってほしい。良い物は古くても残して欲しい。この共助は災害の時にも大いに役立つ。
- ・30・40代の意見に出てくる「ほどよい田舎」「ちょうどいい田舎」「田舎すぎず、都会でもない」というキーワード。
→「本当の田舎」にややハードルを感じる地域外の人間からすると、魅力的なキーワードである。血縁・地縁・社縁以外のコミュニティの縁をどう築くことができるか？そうした場や仕組みづくりにたいするゆるやかでオープンな雰囲気はあるのだろうか。生き方・働き方・暮らし方の柔軟なスタイルとして二拠点居住やリモートワークのリアリティが増す中、立地の点からも北播磨地域に可能性を感じるため、可能ならば掘り下げていただきたい（関係人口の議論から）。併せて外部の視点も必要である。

◎ビジョンづくりについて

- ・アンケートから率直な意見を拾ってみる。
「よくも悪くも誇るほどの物もあまりない（40代）」「昔と何も変わっていない、チャレンジ精神が無いように感じる（40代）」「地場産業は衰退し歴史は語り継がれていない、魅力や誇りは減っている（40代）」
「個性が薄く観光したいと思わない。帰省したいと思う魅力も少ない。一部の人間のための郷土愛が強く私達のような世代は北播磨にどのような魅力があるのか、どんな職場があるのかわからないため、将来もこのまにに残ろうと考えている人は少ないように感じる（10代）」「行政が括った北播磨地域には住民が共有できる物語はなく、北播磨地域に誇りを感じることはない。一方自己の生活圏の歴史や風土には誇りは無いが愛着はある。（50代）」「北播磨のことがよく見えていません。（50代）」「中途半端な田舎（40代）」「今回このアンケートを通して北播磨の未来について考えさせられました。このアンケートを知らない他の友達は北播磨の未来など気にも留めていないでしょう。（10代）」長い引用になりましたが、ビジョン2050を策定するには大きなハードルがあるようです。
- しかし、10代と40代、50代の方たちが真剣に考えて下さっているのが有難く、期待感からの率直なお言葉であると考えると多くの課題が浮かんでくる。
- 市町だけでなく、市町が連携協力して、また北播磨圏域で大きな力にして住民の方々と共に取り組んでいかなければならない。物語を作ることで愛着が生まれ誇りが生まれる。その積み重ねが大きな力となって脱皮することができる。豊かな自然を対象とし民間の施設も視野に入れた大きなブレークスルーが求められている。